

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期（日数）	使用回数	うどんこ病	褐斑病	黒さび病	黒斑病	白さび病	灰色かび病	べと病	炭疽病	黒星病	斑点病
インブレーションクリア	生物農薬	BM2		*d	-					◎					
アグロケア水	生物農薬	BM2		*d	-	◎				◎					
カリゲリン溶	無機	NC		*b	-	◎				◎					
クムラス顆水	無機	M2		-	-					◎					
コロナFL	無機	M2		-	-					◎					
アンビルFL	DM I	3		*b	7	◎				◎					
サブロール乳	DM I	3		-	5					◎					
チルト乳25	DM I	3		*b	3					◎					
トリフミン水	DM I	3		*b	5	◎				◎					
トリフミン乳	DM I	3		-	5					◎					
マネージ乳	DM I	3		*b	6		◎			◎					
ラリー乳	DM I	3		*b	5					◎					
アミスター20FL	Q o I	11		*b	5					◎					
ストロビーFL	Q o I	11		*b	3		◎		◎						
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		*b	5					◎	◎				
メジャーFL	Q o I	11		*b	3					◎					
アフエットFL	アミド	7		*b	3	◎				◎	◎				
バシタック水75	アミド	7		*b	5					◎					
ポリオキシソール乳	抗生物質	19		*b	8	◎									
ポリオキシソール溶	抗生物質	19		*b	8					◎					
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		-	5		◎								
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		-	6		◎		◎	◎					
エムダイファー水	有機硫黄	M3		*b	8			サ	サ	◎	◎	◎			
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		-	8			サ	サ	◎	◎	◎	◎		
ステンレス液	有機硫黄	M3		-	8			◎	◎	◎					
ペンコゼブFL	有機硫黄	M3		*d	8					◎					
サンヨール乳	有機銅	M1		*c	8	◎	◎		◎	◎					
カナメFL	他	7	劇	*b	3					◎					
ダコニール1000FL	他	M5		-	6	◎	◎		◎	◎					◎
パレード20FL	他	7		*b	3	◎				◎					
ピリカット乳	他	39		*b	6	◎				◎					
ユニフォーム粒	Q o I・アミド	11・4		*e	1					◎					
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・19		*b	8					◎	◎				

\*b:発病初期 \*c:発生初期 \*d:発病前～発病初期 \*e:定植前  
サ:さび病で登録(黒さび病と白さび病を含む)

キ  
ク

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	カメムシ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類	ネグサレセンチュウ	その他害虫
エスマルクDF	B T	11A	*	d	-									◎			
ゼンターリ顆水	B T	11A	*	d	-						◎						
デルフィン顆水	B T	11A	*	d	-									◎			
サフオイル乳	殺ダニ		*	d	-										◎		
スピノエース顆水	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5	*	d	2	◎			◎					◎			
マイコタール	微生物	-	*	d	-	シ											
コロマイト水	ｸﾞﾙｲﾄ	6	*	d	2										◎		
コロマイト乳	ｸﾞﾙｲﾄ	6	-	-	2				◎						◎		
アタブロン乳	I G R	15	*	d	5	ナ							◎				
カウンター乳	I G R	15	*	d	5	◎								◎			
カスケード乳	I G R	15	-	-	3	カ				マ							
マッチ乳	I G R	15	*	d	5	カ				マ		◎					
マトリックFL	I G R	18	*	d	4							◎					
ロムダンFL	I G R	18	*	d	5						◎	◎	◎				
アドバンテージ粒	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	劇	*g	-	3	ナ										◎
オリオン水40	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	劇	*d	-	5	◎				◎			◎			
オンコル粒5	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	*	c	1	ナ											
オンコルMC	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	*	e	3	◎											
ガゼット粒	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	劇	*d	3	◎	カ										
ガードホープ液	殺線虫	1B	劇	*e	2		◎										◎
ネマキック粒	殺線虫	1B	*	a	1											ミ	セ
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B	*	a	1											ミ	◎
ラグビーMC粒	殺線虫	1B	*	h	1												◎
サンマイトFL	殺ダニ	21A	劇	-	2		◎										◎
スターマイトFL	殺ダニ	25A	*	d	1												◎
ピラニカEW	殺ダニ	21A	劇	*d	1		◎										◎
マイトコーネFL	殺ダニ	20D	*	f	1												ミ
フェニックス顆水	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*	d	4						◎			◎			
ヨーバルFL	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*	d	3	◎					◎			◎			
アクタラ顆溶*	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	6	カ		ウ	◎								◎
アドマイヤー1粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	e	5	◎	◎										
アドマイヤーFL	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	劇	*d	5	施	施										
アルバリン顆溶	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	5		◎	◎	◎	◎							
スタークル顆溶	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	5		◎	◎	◎	◎							
アルバリン粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	c	1		◎		◎	マ							
スタークル粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	e	5		◎										
ダントツ溶*	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	4	◎	◎	◎		◎							
ダントツ粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	4	◎	◎			マ							
バストガード溶	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	4	カ	◎		◎								
バストガード粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	d	4	カ	◎			マ							
モスピラン粒	ﾈｯｺﾅｲﾄ	4A	*	c	1	カ				◎							
			*	i	1	◎	◎										

キ  
ク

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 （ 日 数 ）	使 用 回 数	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ 類	オ オ タ バ コ ガ 類	ハ ダ ニ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ュ ウ 類	そ の 他 害 虫
アグロスリン乳	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A	劇	*d	6	◎											
アーデント水	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A		*d	5	カ									◎		
サイハロン乳	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A	劇	-	3	◎								◎			
テルスターFL	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A	劇	-	3	カ									◎		
トレボン乳	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A		*d	6	◎											
マブリック水20	ビレスロイト <sup>®</sup>	3A	劇	*d	2	◎											
プリンスFL	フェニルピラゾール	2B	劇	*d	5	◎								◎			
アニキ乳	マクロライト <sup>®</sup>	6		*d	6					マ		◎		◎			
アフーム乳	マクロライト <sup>®</sup>	6		*d	5	◎											
サンヨール乳	有機銅			*d	8	◎									◎		
オルトラン水	有機リン	1B		*d	5					マ				◎			
オルトラン粒	有機リン	1B		*d	5	◎	◎				◎	◎	◎				ネ
カルホス乳	有機リン	1B	劇	*d	4				お	マ							
ジェイエース溶	有機リン	1B		*d	5	◎	◎			マ				◎			
ジェイエース粒	有機リン	1B		*d	5	◎	◎			マ							
スミチオン乳	有機リン	1B		-	6	◎	◎				◎	◎	◎				フ
マラソン乳	有機リン	1B		*d	6						◎	◎	◎				
アクセルFL	他	22B		*d	6							◎	◎				
ウララ50D F	他	29		*d	6		◎										
グレーシア乳	他	30		*d	2	◎					◎	◎	◎	◎			
コテツFL	他	13	劇	*d	2	み					◎	◎	◎	◎	◎		ア
トランスフォームFL	他	4C		*d	3	◎	◎										
トルネードエースD F	他	22A		*d	4							◎		◎			
ハチハチ乳	他	21A	劇	*d	4	◎	◎			◎							
プロフレア S C	他	30		*d	3							◎		◎			
ビルク水	殺 <sup>®</sup> ニ・ビレスロイト <sup>®</sup>	10B・3A	劇	-	1										◎		
アクセルキングFL	他・他	21A・22B	劇	*d	4	◎	◎			◎		◎		◎			

\*:使用方法は、散布だけでなく株元への灌注や灌水チューブを使用した灌注処理もある。但し適用害虫により登録が異なる場合があるため注意すること。

\*a:定植前 \*c:定植時 \*d:発生初期 \*e:生育期 \*f:開花前まで

\*g:植付時 \*h:植付前 \*i:生育初期

ア:アワダチソウグンバイ

ウ:ウスモンミドリカスミカメ(灌水チューブを用いた灌注処理)

カ:ミカンキイロアザミウマ

グ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ

シ:施設栽培でミカンキイロアザミウマ

セ:ネグサレセンチュウ及びハガレセンチュウ

ダ:ネダニ類

ナ:ミナミキイロアザミウマ

ネ:ネキリムシ類

フ:フラーバラゾウムシ

マ:マメハモグリバエ

ミ:ナミハダニ

お:オンシツコナジラミ若齢幼虫

み:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

施:施設栽培

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病・ 褐斑病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ストロビーフロアブル 2000～3000倍</li> <li>ダコニール1000 (FL) 1000倍</li> <li>サンヨール(乳) 500倍</li> <li>ベンレート水和剤 2000～3000倍</li> </ul>	最終摘心の20～30日後から薬剤散布を開始する。摘心直後に降雨が多い場合には早めに散布する。
黒さび病	生育期 (春秋)	<ol style="list-style-type: none"> <li>耐病性品種を栽培する。</li> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジマンダイセン水和剤# 400～600倍</li> <li>マネージ乳剤● 500～1000倍</li> </ul>	5～6月、秋の冷涼多湿時に発生しやすい。潜伏期間は10～15日である。 # さび病での登録。 ● 耐性菌を生じやすいので連用しない。
白さび病	生育期 (梅雨期・ 晩秋)	<ol style="list-style-type: none"> <li>耐病性品種を栽培する。</li> <li>発病前から次の薬剤のいずれかを散布する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>サブロール乳剤●△ 1000～1500倍</li> <li>サンヨール(乳) 500倍</li> <li>ジマンダイセン水和剤# 400～600倍</li> <li>ストロビーフロアブル● 2000～3000倍</li> <li>トリフミン水和剤● 1000倍</li> <li>ポリオキシシナL水溶剤 2500倍</li> <li>マネージ乳剤● 500～1000倍</li> </ul>	● 耐性菌を生じやすいので連用しない。 △ サブロールは花芽分化期前後の使用をさける。また、品種や作型によっては新生葉に奇形等を生じることがある。 # さび病での登録。
うどんこ病	生育期 (秋～春)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ピリカット乳剤 2000倍</li> <li>ポリオキシシナL乳剤 500～1000倍</li> <li>モレスタン水和剤*△ 2000～3000倍</li> </ul>	初期防除を徹底する。 * 花き類・観葉植物で登録 △ モレスタンは高温時や品種によって被害がでることがある。
白絹病	挿芽前 ・定植前	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。</li> </ul>	* 花き類・観葉植物で登録
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期に、次の薬剤を株元に灌注する。</li> <li>リゾレックス水和剤* 500～1000倍 3ℓ/㎡</li> </ul>	
半身萎凋病	挿芽前 ・定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>挿穂は健全株から採穂する。</li> <li>土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。</li> </ol>	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病株はただちに抜きとり、処分する。</li> </ul>	

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ウイルス病		1. モザイク症状などの異常のみられる親株は更新する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。	
えそ病	生育期	1. 罹病株は除去する。 2. アザミウマ類を防除する。	T SWVによる。苗感染に注意する。 問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
アブラムシ類	定植時・生育期	1. 次の薬剤を植穴に施用する。 ガゼット粒剤 2 g/株 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 オリオン水和剤40 1000倍 サイハロン乳剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 3. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	キクに寄生するアブラムシには、キクヒメヒゲナガアブラムシ、キククギケアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどがある。 アブラムシはウイルス病を媒介するので早期に防除する。
ミナミキイロアザミウマ	定植時または生育期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー1粒剤# 3 kg/10a オンコル粒剤5 定植時 6～9kg/10a 生育期 9 kg/10a コテツフロアブル 2000倍	#アザミウマ類での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤# 1000～2000倍 カウンター乳剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 ベストガード水溶剤 1000倍	#アザミウマ類での登録
マメハモグリバエ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 カルホス乳剤 1000倍 ベストガード粒剤 2 g/株	

キ

ク

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
オオタバコガ	生育期	1. 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF 1000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 プロフレアSC 2000～4000倍 ロムダンフロアブル 1000倍	
ハダニ類	生育期	1. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する（くん煙剤の項参照）。	高温、乾燥時に多発する。 ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用を避け、数種類の薬剤を選び輪換散布を行う（ハダニ類防除薬剤の項参照）。葉裏にも十分散布する。 *花き類・観葉植物での登録
キクモンサビダニ（紋々病）	定植前	1. 発病株から挿穂をとらない。 2. 摘芯した芽を処分する。	
ネグサレセンチュウ	定植前	1. 土壌消毒を行う（土壌消毒の項参照）。 2. 次の薬剤のいずれかを全面施用し、土壌混和する。 アドバンテージ粒剤 10～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 20～25kg/10 a	
ハガレセンチュウ	定植前	1. 連作をさける。連作する場合は被害葉を取り除く。 2. 発生した圃場から採芽しない。	
その他の病害虫		根頭がんしゅ病、半身萎凋病、葉腐れ症（リゾクトニア菌）、キクキンウワバ、キクスイカミキリ、キクヒメタマバエ	